

**みんなで作ろう！
セーフコミュニティちちぶ
子どもの安全対策委員会
活動報告**



**発表者：委員長 川田哲也
所 属：花の木小学校PTA**

子どもの安全対策委員会設置の背景

①乳幼児の自宅での転倒・転落による救急搬送が多い状況にある。

 背景①

②小・中学生のケガが多く発生している。

 背景②

③子どもの自転車運転中の外傷が多い。

 背景③

④全国的にいじめの認知件数が増加する状況にある。

 背景④

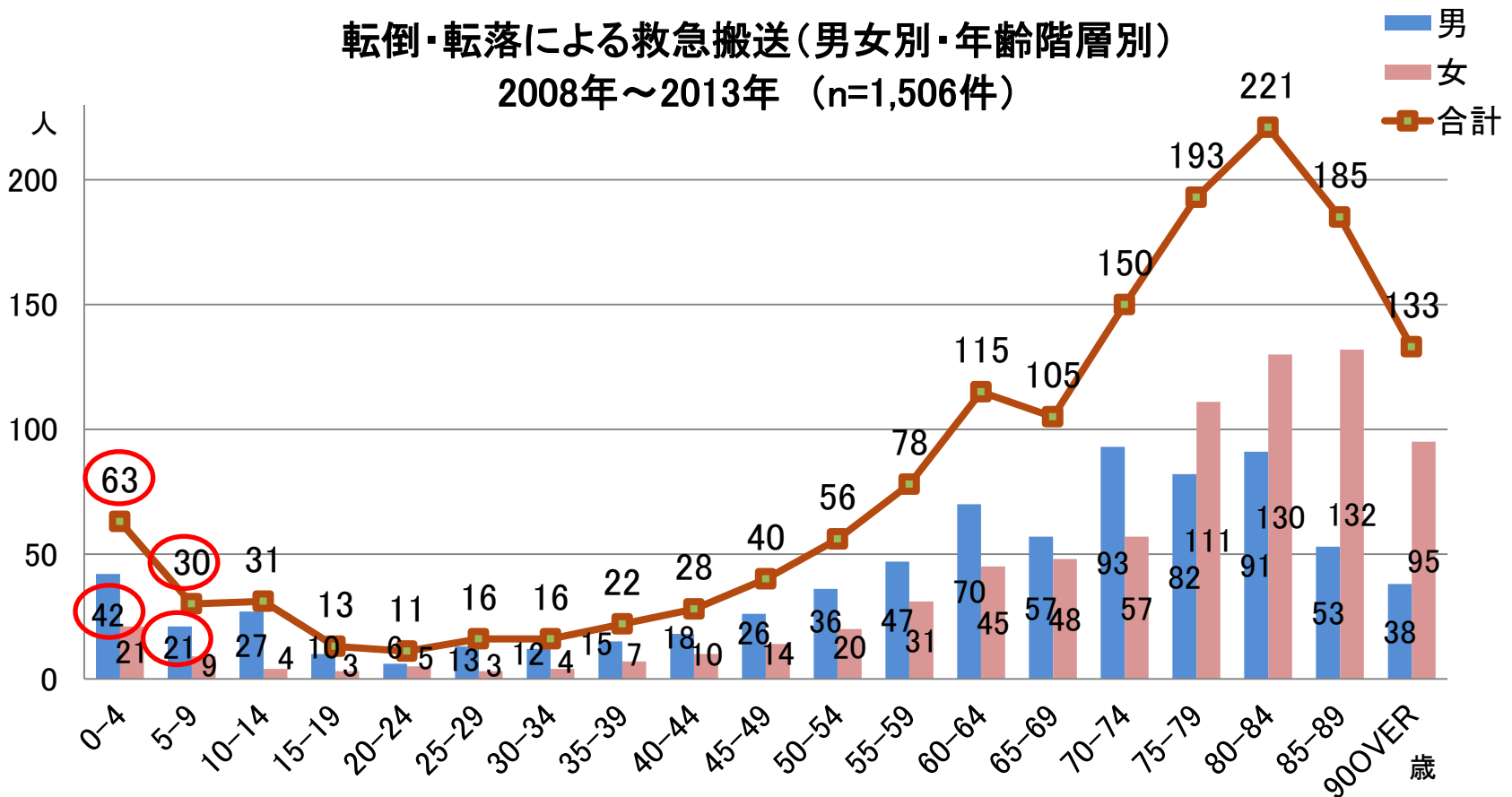
対策委員会設置の背景 ①

転倒・転落による救急搬送件数

未就学児童は、「転倒・転落」による救急搬送件数が多くなっています。また、男児のケガの件数が多くなっています。

図1

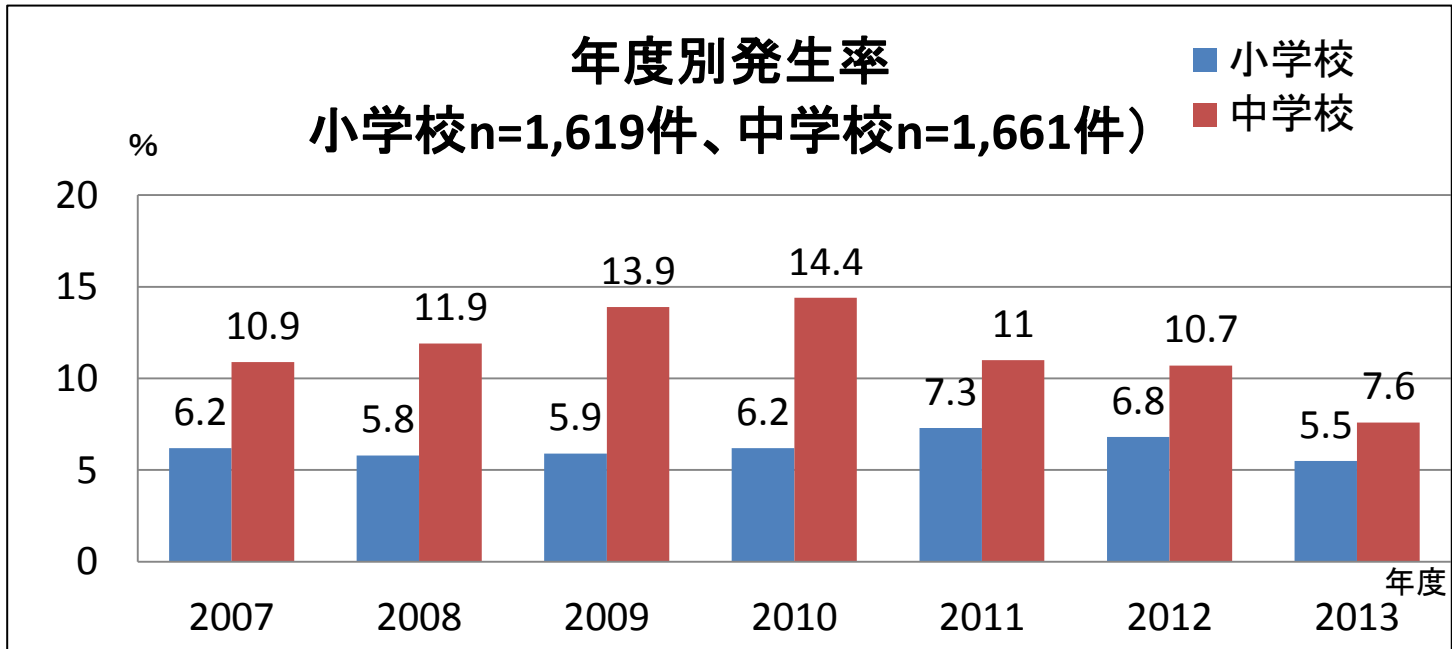
転倒・転落による救急搬送(男女別・年齢階層別)
2008年～2013年 (n=1,506件)



対策委員会設置の背景 ②

小学校・中学校とも、毎年度約200件のケガが発生しています。
 ※1件あたり5,000円以上の医療費がかかるケガ

図2



	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
発生件数(小学校)	251	229	224	230	260	236	189
発生件数(中学校)	245	258	294	297	220	205	142
小学校児童数	4,047	3,928	3,769	3,684	3,560	3,475	3,408
中学校生徒数	2,240	2,164	2,117	2,057	2,004	1,914	1,858

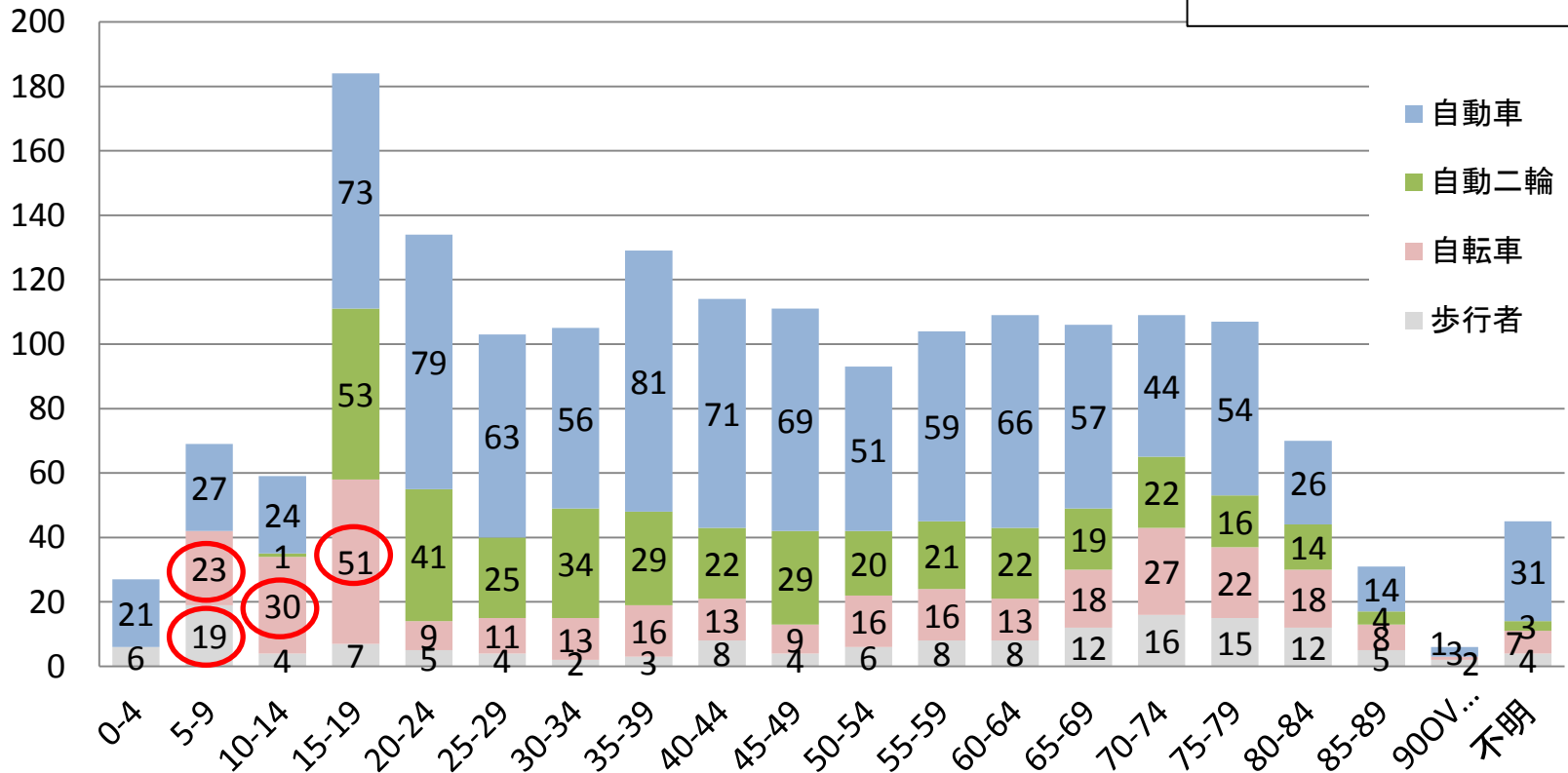
出典：日本スポーツ振興センター災害給付データ(2007年度～2013年度)

対策委員会設置の背景 ③

5歳から19歳の子どもは、他の世代に比べて「自転車
運転中の外傷」が多い。(全体平均:17.7%)

＜自転車運転中の外傷＞
 5歳～9歳 33.3%
 10歳～14歳 50.8%
 15歳～19歳 27.7%
 ＜歩行中の外傷＞
 5歳～9歳 27.5%

図3 交通事故による救急搬送の状況(n=1,815件)



対策委員会設置の背景 ④

ネットトラブル・いじめの認知状況

○ネットトラブル

2013年度 小学校が0件、中学校が8件（小中学校近年増加）。

○いじめの認知件数

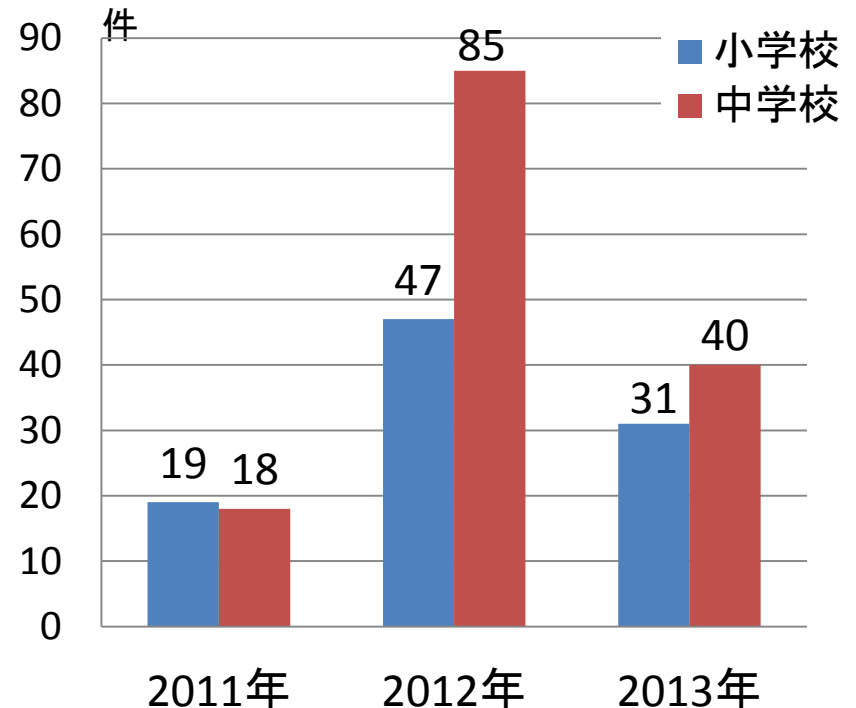
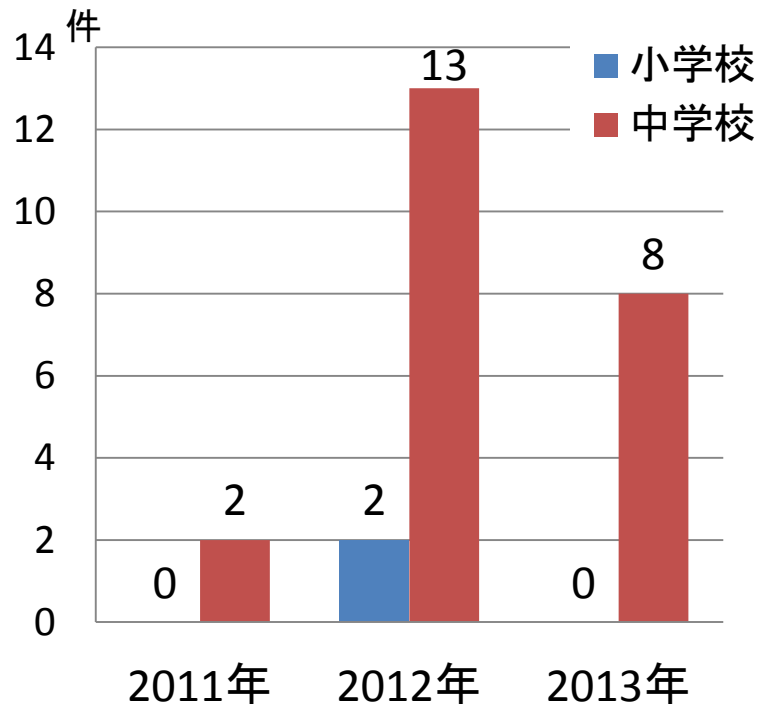
2013年度 小学校が31件、中学校が40件（小・中学校近年増加）。

図4-1

ネットトラブルの報告件数

図4-2

いじめの認知件数



子どもの安全対策委員会の構成

区分	団体・組織名	委員数
住民組織等 (6)	秩父市町会長協議会	1名
	秩父市民生委員・児童委員協議会	1名
	PTA	3名
	私立幼稚園連合会	1名
教育機関 (5)	学校	3名
	保育所	2名
行政機関 (6)	秩父警察署	1名
	秩父市(こども課、保健センター、教育研究所、公募職員)	5名

子どもの安全対策委員会の経過①

回数	開催日	主な会議内容
第1回	2013年 8月19日	セーフコミュニティの概要説明
第2回	2013年 9月27日	第1回ワークショップ (主観的な課題抽出)
第3回	2013年10月31日	第2回ワークショップ (データから見る課題抽出)
第4回	2013年12月17日	重点課題の選定、方向性の検討
第5回	2014年 1月29日	方向性の検討、対象の設定、取組みの議論
第6回	2014年 3月27日	重点課題に対する取組みの検討
第7回	2014年 4月25日	現地指導リハーサル
現地指導	2014年 5月28日	専門家による現地指導(活動報告、質疑応答)
第8回	2014年 8月11日	現地指導の講評について確認 (合同対策委員会)

子どもの安全策委員会の経過②

回数	開催日	主な会議内容
第9回	2014年 9月 3日	取り組みの具体的な進め方及び成果指標の検討
第10回	2014年10月 2日	具体的な取り組み及び成果指標の検討
正副委員長 会議	2014年11月26日	各対策委員会の進捗状況の報告、情報共有
第11回	2014年12月18日	課題と取り組み、成果指標の検討
第12回	2015年 2月 5日	取り組み及び成果指標の最終検討
第13回	2015年 3月 19日	取り組み及び成果指標の検討
第14回	2015年 4月 24日	取り組み及び成果指標の最終検討
第15回	2015年 6月 16日	現地審査報告資料の検討

秩父市の現状

【ワークショップによる主観的な意見】

- ・部活動中のケガ・事故が常に心配の種である。
- ・子どもの自転車の飛び出しが危ない。
- ・自転車の二人乗りをしている子どもがいる。
- ・携帯電話(スマホ)によるトラブルやいじめが心配である。

【データからみた客観的な危険】

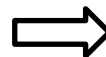
- ・子どもの自宅での転倒・転落による救急搬送が多い。 図1・図5・図6・表1
- ・子どもは、自転車や歩行時の事故が多い。 図3
- ・小・中学校で、多くのケガが発生している。 図2
- ・小学校では、休み時間のケガが最も多い。 図7
- ・中学校では、体育的部活動でのケガが最も多い。 図7
- ・小学校における場所別のケガの発生状況は、運動場・校庭が最も多い。 図8
- ・小・中学校とも、球技の時のケガの割合が最も多い。 図9
- ・いじめの相談件数が増加している。 図4-1・図4-2

地域診断① ワークショップでの検討

2回にわたるワークショップにより、主観的な課題と客観的な課題の抽出作業を行いました。



各委員が数多くの意見を出し合いました。



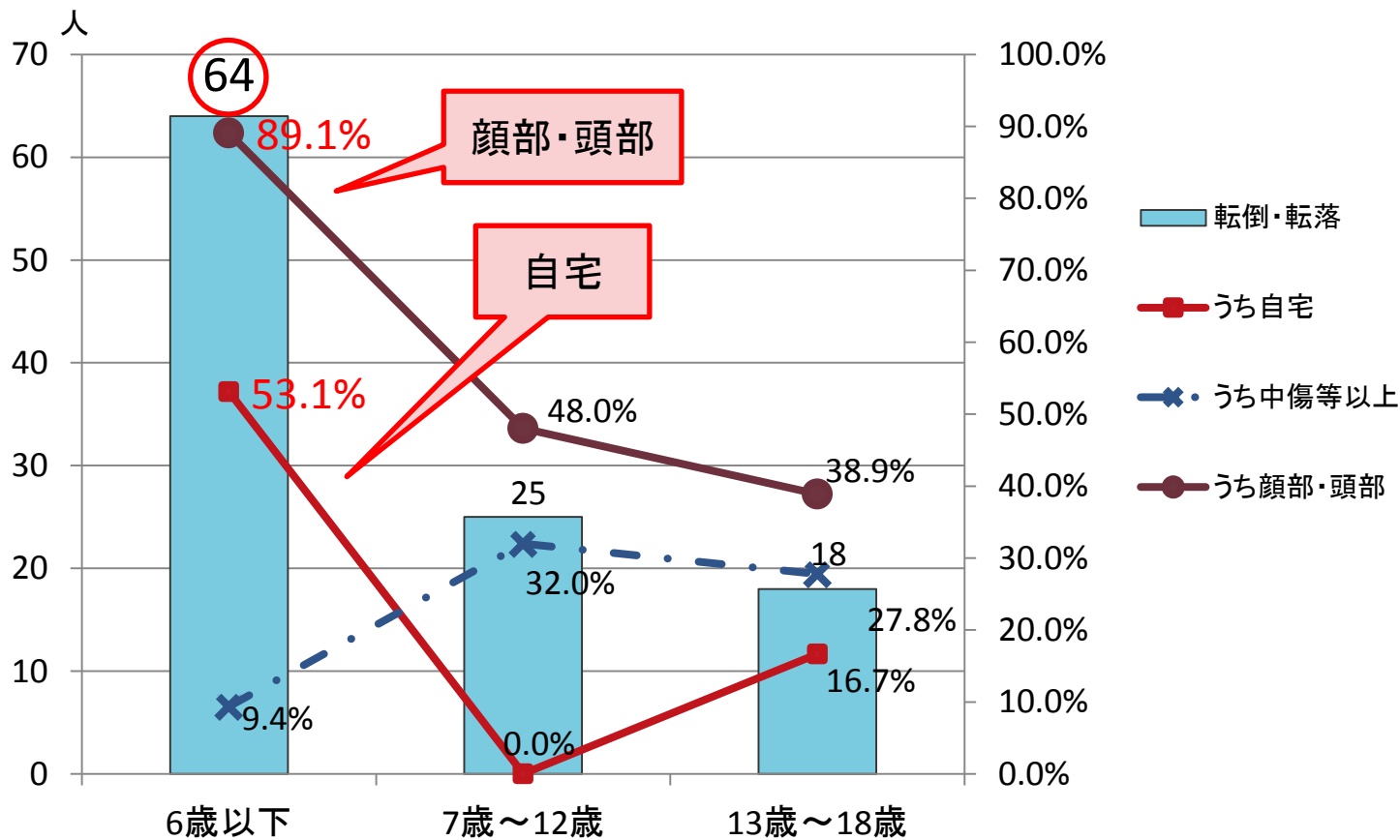
ワークショップでの検討事項を他の委員会の皆さんに発表し、情報共有しました。

地域診断② データからみた客観的な危険(1)

乳幼児の転倒・転落によるケガ

6歳以下の乳幼児が、「転倒・転落」により受傷している件数が64件ありました。乳幼児は、自宅で転倒するケースが約半数を占めています。

図5



出典: 救急搬送データ(2008年～2012年)

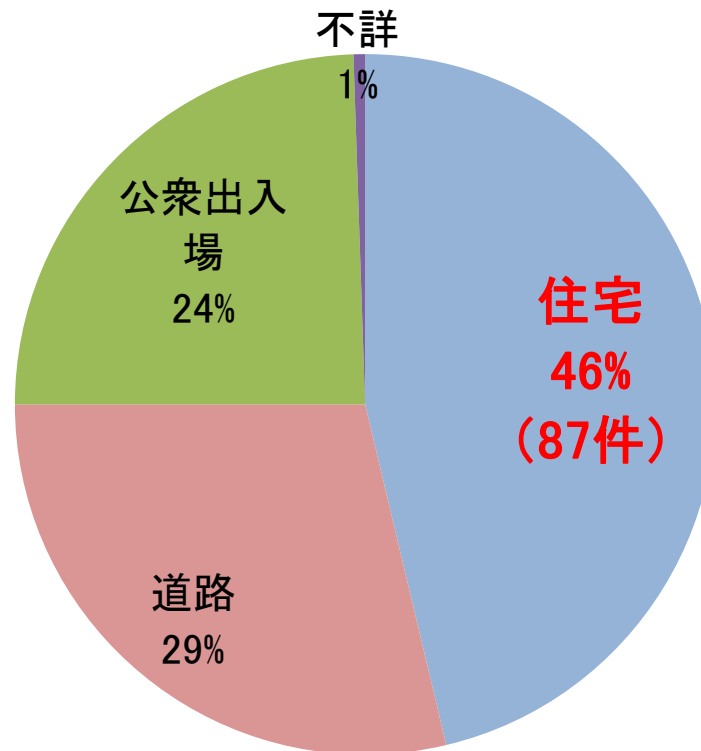
データからみた客観的な危険(2)

乳幼児によるケガの発生場所

6歳以下の乳幼児におけるケガの発生場所は、「住宅」が最も多く、全体の半分近くを占めています。

図6

発生場所(n=188)



データからみた客観的な危険(3)

乳幼児の一般負傷の要因

6歳以下の乳幼児が、「転倒・転落」により受傷している件数は64件。
 自宅で転倒するケースが約半数を占めています。

表1

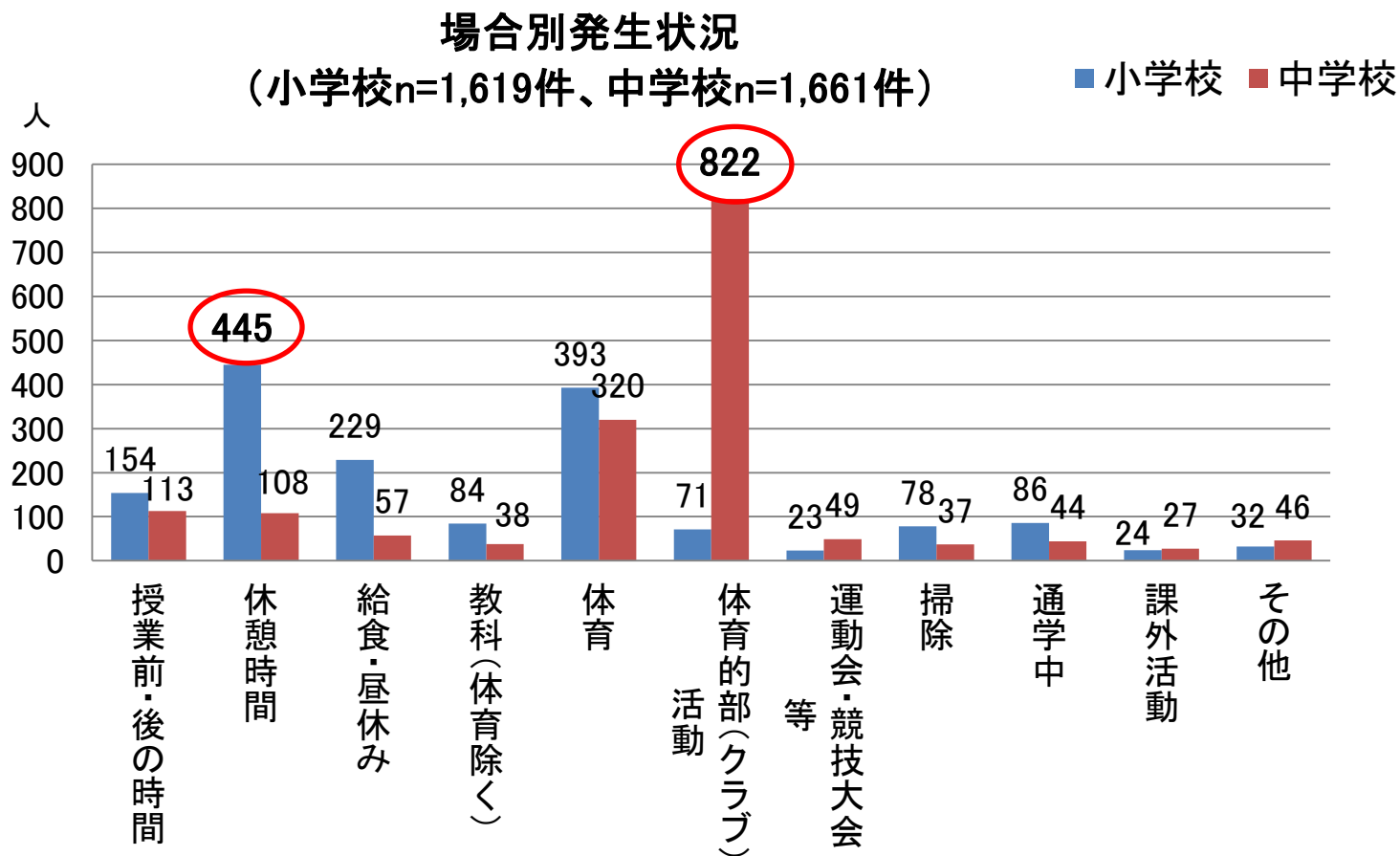
子ども(0歳～6歳)の「一般負傷」の要因									
	鋭利なものとの接触	挟まれ・巻き込まれ	誤嚥による窒息	衝突・接触	転倒	転落	その他	不詳	合計
公衆出入場所	0	2	1	3	8	17	3	1	35
教育施設(幼稚園等)			1		1	3			5
商業施設(スーパー・コンビニ・量販店等)					1	4		1	6
余暇・スポーツ施設				2	4	6	2		14
公共交通(駅・電車・バス等)		1			1	1			3
その他		1		1	1	3	1		7
住居	6	7	7	8	11	24	10	3	76
自宅(屋内)	6	5	7	8	9	18	10	3	66
自宅(屋外)		2			1	6			9
知人宅(屋内)					1				1
道路・駐車場		1			3	1	1		6
不詳								1	1
合計	6	10	8	11	22	42	14	5	118

データからみた客観的な危険(4)

小・中学校における場合別のケガの発生状況

小学校における場合別のケガの発生状況は、「休憩時間」が最も多く、中学校では、「体育的部活動」が最も多くなっています。

図7



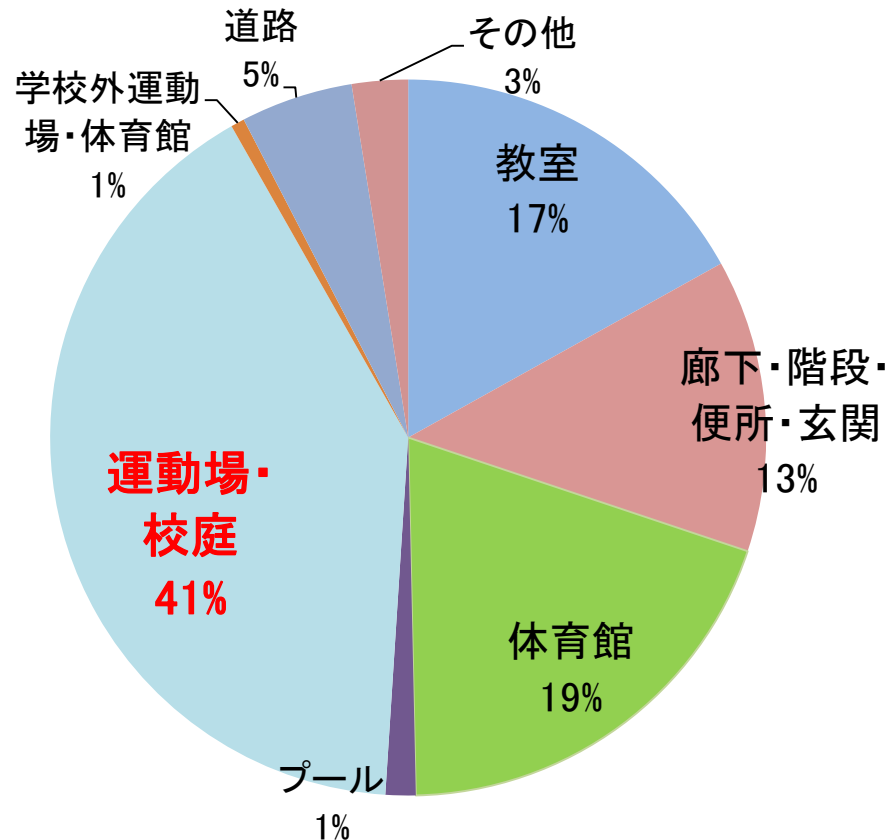
データからみた客観的な危険(5)

小学校におけるケガの場所別の発生状況

小学校における場所別のケガの発生状況は、「運動場・校庭」が最も多く全体の4割以上を占めています。

図8

小学校場所別発生状況(n=1,619件)



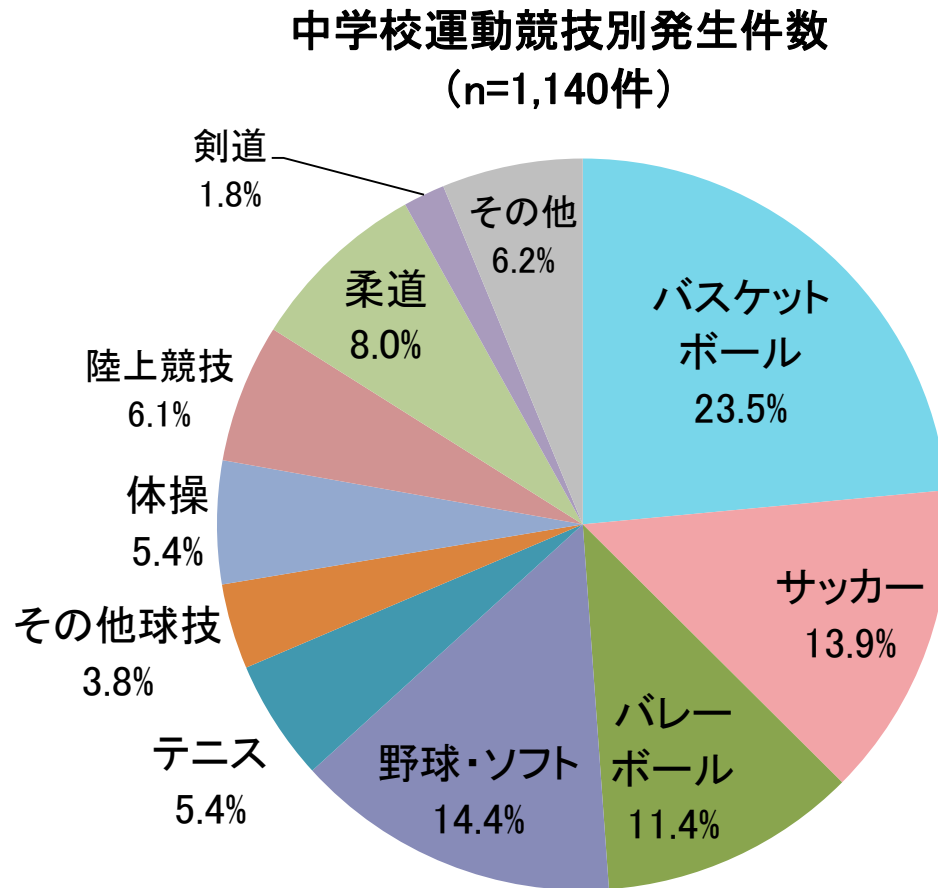
出典: 日本スポーツ振興センター災害給付データ(2007年度~2013年度)

データからみた客観的な危険(6)

中学校におけるケガの場合別の発生状況

「バスケットボール」が最も多く約24%、次いで「野球・ソフト」、「サッカー」、「バレーボール」と、球技におけるケガが多くなっています。

図9



データからみた客観的な危険(7)

【再掲】

ネットトラブル・いじめの認知状況

○ネットトラブル

2013年度 小学校が0件、中学校が8件(中学校が多い)。

○いじめの認知件数

2013年度 小学校が31件、中学校が40件(小・中学校とも減少傾向)。

図4-1

ネットトラブルの報告件数

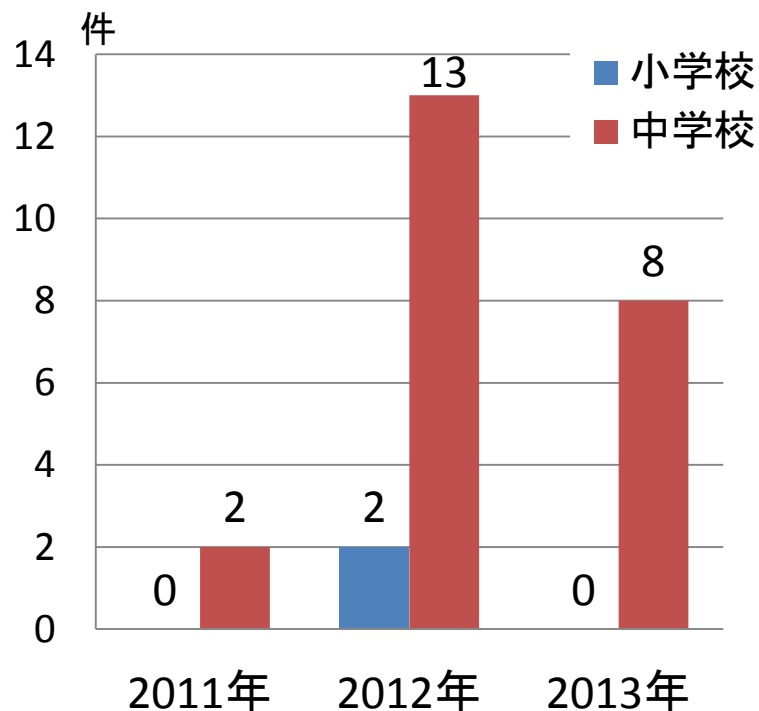
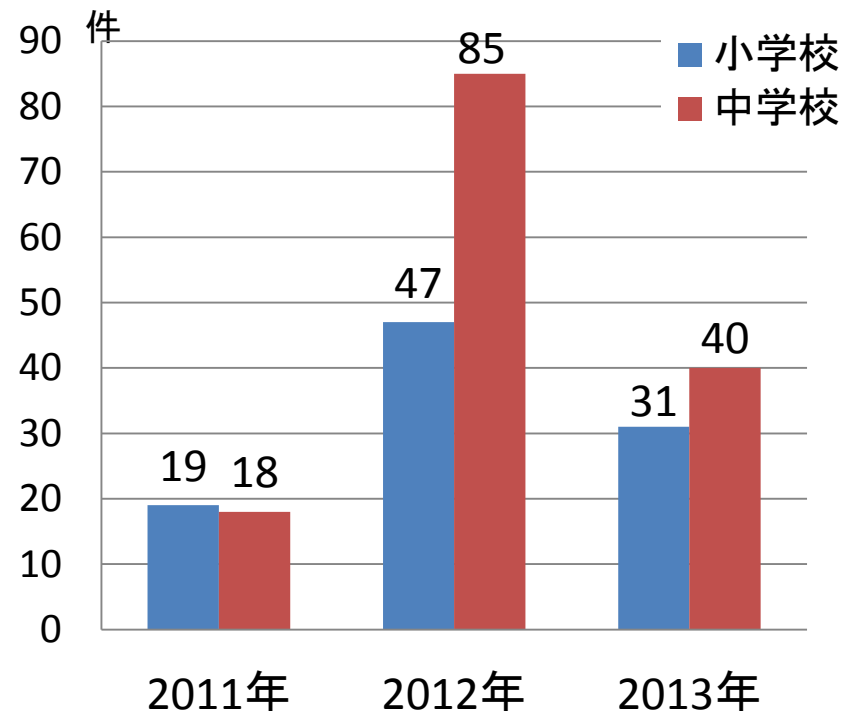


図4-2

いじめの認知件数



子どもの安全対策委員会 地域診断による課題の整理

図1

図2

図3

図4-1

図4-2

図5

図6

表1

図7

図8

図9

課題1 子どもはケガが多い
○学校・保育所・幼稚園や家庭内でのケガが多い
○中学生は特に部活動でのケガが多い

課題2 子どもの自転車運転中の外傷が多い
○交通安全マナーが悪くなっている(委員の主観)
○自転車の事故が多い

課題3 ネットトラブルの増加
○スマホによるいじめが増加している(心配)

課題4 いじめ認知件数の増加
○いじめの認知件数が増加している

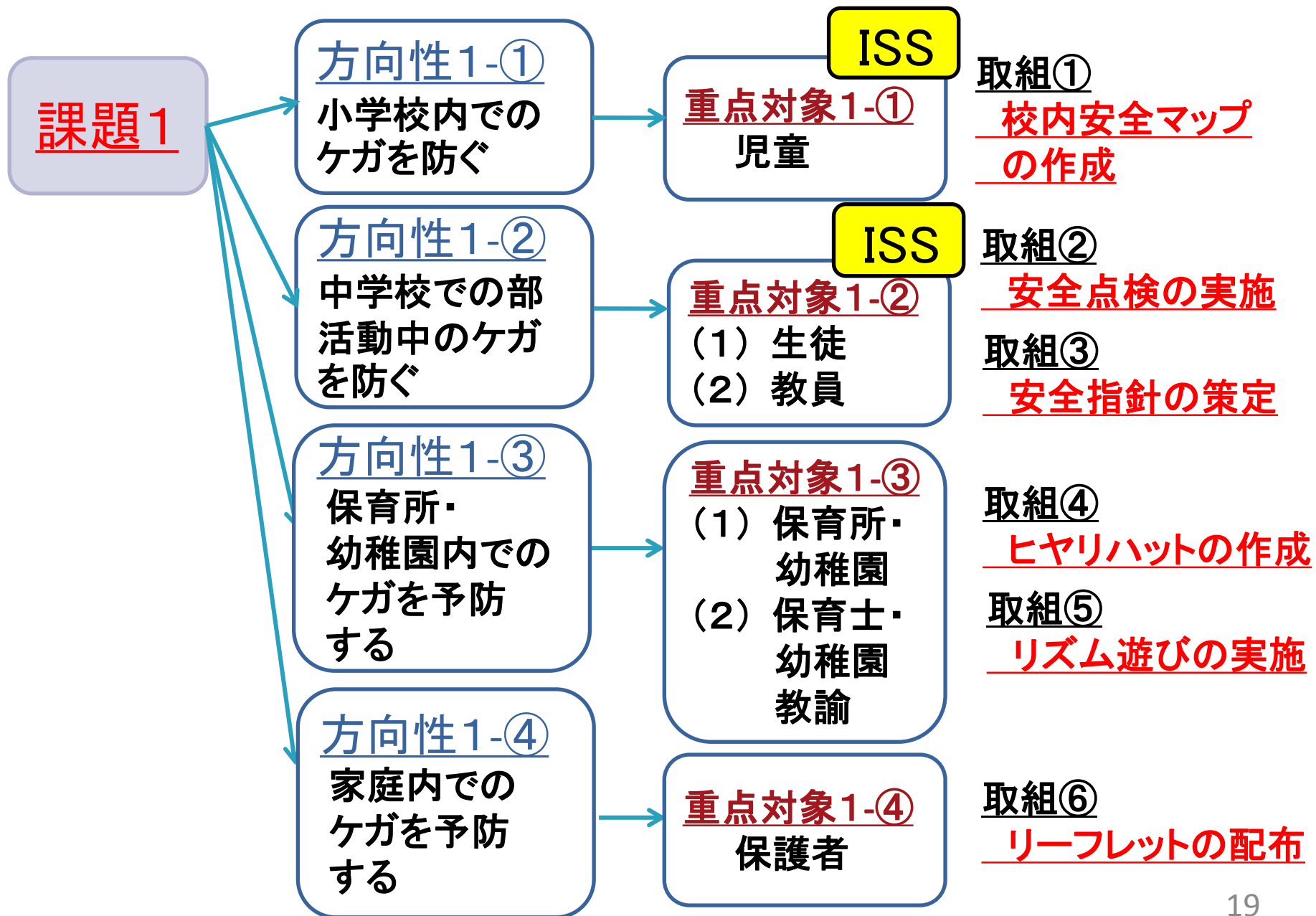
課題5 地域のつながりが希薄になっている
○地域活動に参加していない保護者が多い

方向性
1

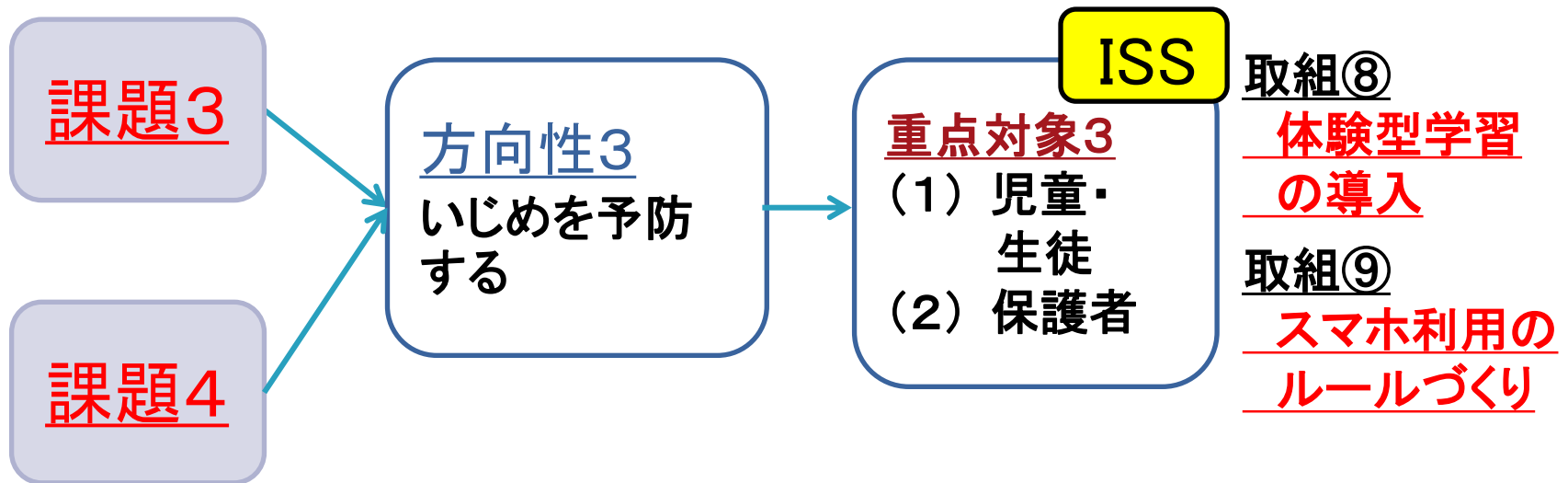
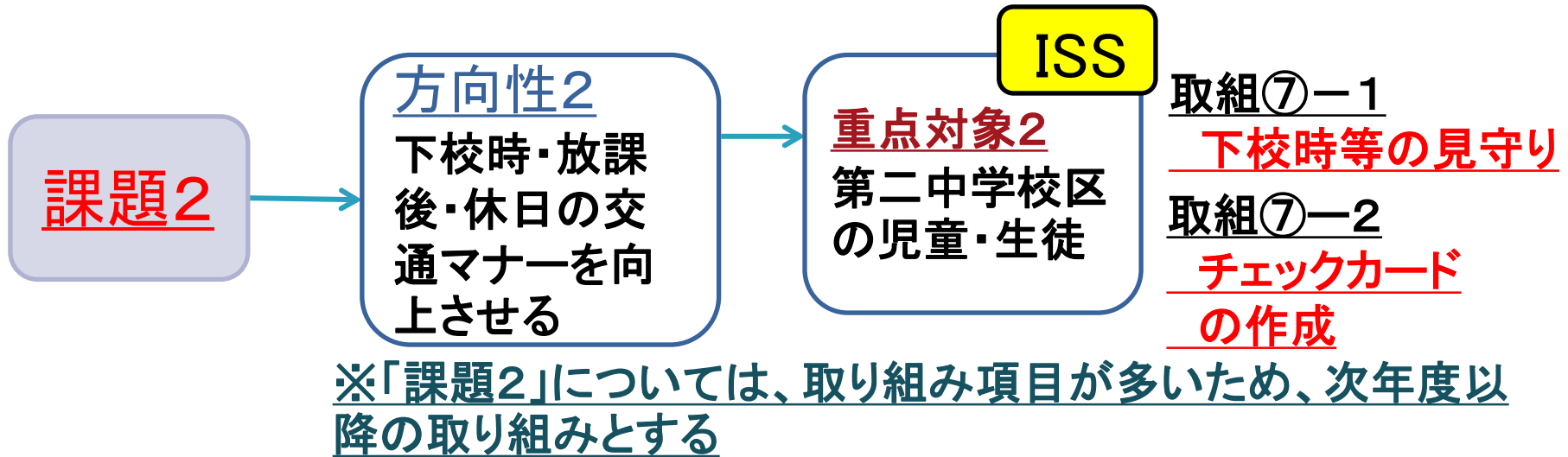
方向性
2

方向性
3

課題、方向性、重点対象、取組の整理①



課題、方向性、重点対象、取組の整理②



子どもの安全に関する活動一覧

	家庭	学校・幼稚園・保育園	地域	環境・その他
幼稚園 保育園	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭内ケガ予防リーフレットの作成・配布 ・ケガの実態アンケートの実施 ・リズム体操の普及 ・自転車用チャイルドシートの着用促進 ・ヘルメットの着用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケガの記録 ・リズム体操の実施 ・ヒヤリハット集の作成・情報共有 ・危機管理研修の開催 ・保育士アンケートの実施 ・交通安全教室 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域安全点検 ・安全マップの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ISS地区にゾーン30導入 ・危険個所の改善
小学生	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ利用のルール作り ・ヘルメットの着用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケガの記録 ・ケガマップの作成 ・ISS委員会の設置 ・交通安全教室 ・ヘルメットの着用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員、スクールガード、PTAによる登下校時の安全確認 ・交通指導員による薄暮時の立哨活動 ・地域安全点検 ・安全マップの作成 	
中学生	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ利用のルール作り ・ヘルメットの着用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動での安全対策 ・スマホのルール作り ・ライフスキル教育 ・AED講習 ・自転車通学者全員にヘルメットを貸与 ・交通安全教室 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員、スクールガード、PTAによる登下校時の安全確認 ・地域安全点検 ・安全マップの作成 	
高校生		<ul style="list-style-type: none"> ・警察による自転車安全指導 ・自転車マナーアップ推進校の指定 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域安全点検 ・安全マップの作成 	

黄色網掛け: 重点対象の 카테고리

赤文字: 新規

緑文字: 改善

青文字: 対策委員会が主体で実施

現地指導の際のアドバイス

アドバイス

①

保育所に通っていない子どもへの対応として、予防接種の機会を利用すると良い

対応

対策委員会の委員に、保健センターの保健師を追加して対応した。

アドバイス

②

子どもは、成長に合わせてケガの傾向も変わる。パンフレットの掲載情報もこれに合わせて変える必要がある。

対応

保育所の保護者を対象に、ケガの実態に関するアンケートを実施。この結果を踏まえたパンフレットを作成中。

小学校内でのケガを防ぐ

改善

・取り組み①

「校内安全マップの作成」

1 概要

校内のケガの発生地点、危険箇所を調査し、マップを作成することにより視覚化する。

2 関係主体

児童・生徒、保護者、教師

3 活動実績

花の木小学校、南小学校、秩父第二中学校で実施
ISS委員会(保健委員)が中心となって活動中

4 SCを始めてからの気づき

児童・生徒が主体となって、ケガの予防に取り組むようになった。



中学校での部活動中のケガを防ぐ

改善

・取り組み②

「安全点検の実施」

1 概要

教員と生徒と一緒に、中学校の部活動で使用する器具や設備、危険個所の点検を実施する。

2 関係主体

児童・生徒、保護者、教師

3 活動実績

秩父第二中学校のすべての部活動で実施

4 SCを始めてからの気づき

教師だけでなく、生徒も一緒に安全点検に取り組むようになった。道具の取扱いも丁寧になった。



中学校での部活動中のケガを防ぐ

新規

・取り組み③

「安全指針の策定」

1 概要

体育の部活動の種類(14部活9種類)ごとに安全指針を策定する。
健康チェック、準備運動、練習方法、整理運動、設備の利用方法などの指針を策定する。

2 関係主体

生徒、保護者、教師

3 活動実績

秩父第二中学校のすべての部活動で実施

2013年 33件 ⇒ 2014年 19件

4 SCを始めてからの気づき

教師と生徒と一緒に安全指針を策定した。
各自がケガの予防を意識するようになった。



保育園・幼稚園内でのケガを予防する

新規

・取り組み④

「ヒヤリハットの作成」

1 概要

保育所内でケガが発生しやすい場所などをまとめた「ヒヤリハット集」を作成する。

2 関係主体

保育所、市、保護者

3 活動実績

2013年度	保育所内の情報収集
2014年度	保育所間の情報共有及び危険個所の改善
2015年度	2013年度データの情報更新

4 SCを始めてからの変化

ベテラン保育士の知識が生かされてなく、保育所間での情報共有が不足していたことから、ヒヤリハット集で危険情報の共有を行った。

保育園・幼稚園内でのケガを予防する

復活

・取り組み⑤

「体幹トレーニングの実施」

1 概要

筋力アップを目的としたリズム体操(体幹トレーニング)を復活させる。

2 関係主体

保育士、園児、保護者

3 活動実績

2014年度	日野田保育所(4~5歳児)で実施
2015年度	全市立保育所で実施(年齢も拡大)

4 SCを始めてからの変化

外傷データにより転倒によるケガが多いことがわかったため、転ばないように体幹を鍛え、バランス感覚を養う体操を導入する。



家庭内でのケガを予防する

新規

・取り組み⑥

「リーフレットの配布」

1 概要

家庭内でのケガの実態調査に基づき、家庭内等でのケガの予防に関するリーフレットを作成し、各保育所・保健センターが保護者に配布する。

2 関係主体

保育所、保護者、医療機関、保健センター、市

3 活動実績

2014年度 子どものケガの実態調査(657人)

2015年度 リーフレット作成・配布(予定) ※東洋大学の協力

4 SCを始めてからの変化

乳幼児へのアプローチを効果的にするため、保健センターでも配布する。

いじめを予防する

改善

・取り組み⑧

「体験型学習の強化」

1 概要

ロールプレイング等の体験型学習で、子ども自身に考えさせる機会を設け、問題解決能力を身につけさせ、対人関係の構築をはかり、いじめを防止します。

2 関係主体

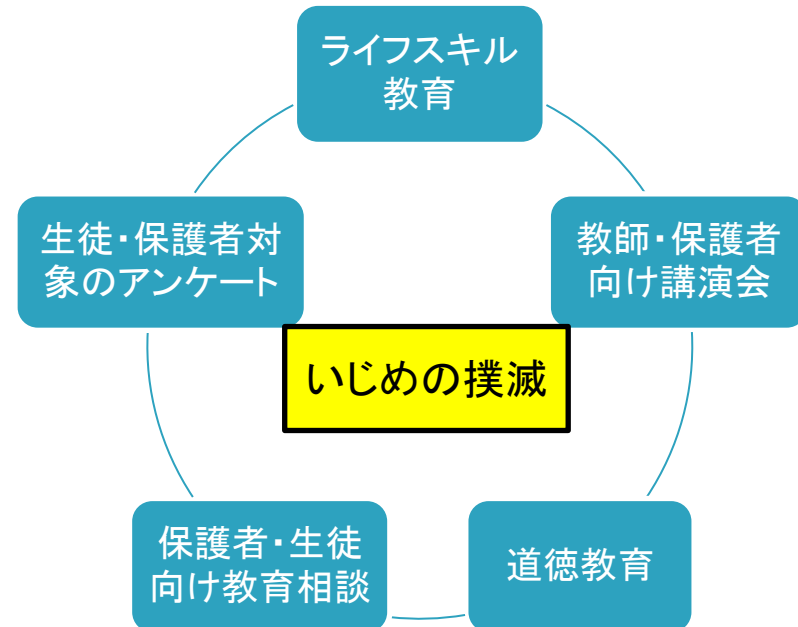
生徒、教師

3 活動実績

年間学習計画に位置付けし、すべての小中学校で実施（年4～5回）

4 SCを始めてからの気づき

子ども自身に考えさせる機会を多くもつことで、他人の気持ちを考える生徒が増加した。



いじめを予防する

新規

・取り組み⑨

「スマホ利用のルール作り」

1 概要

いじめにつながっている「スマートフォン」の利用について、ルールづくりを進める。
子ども・保護者・学校との間でのルールを考える。

2 関係主体

生徒、保護者、教師

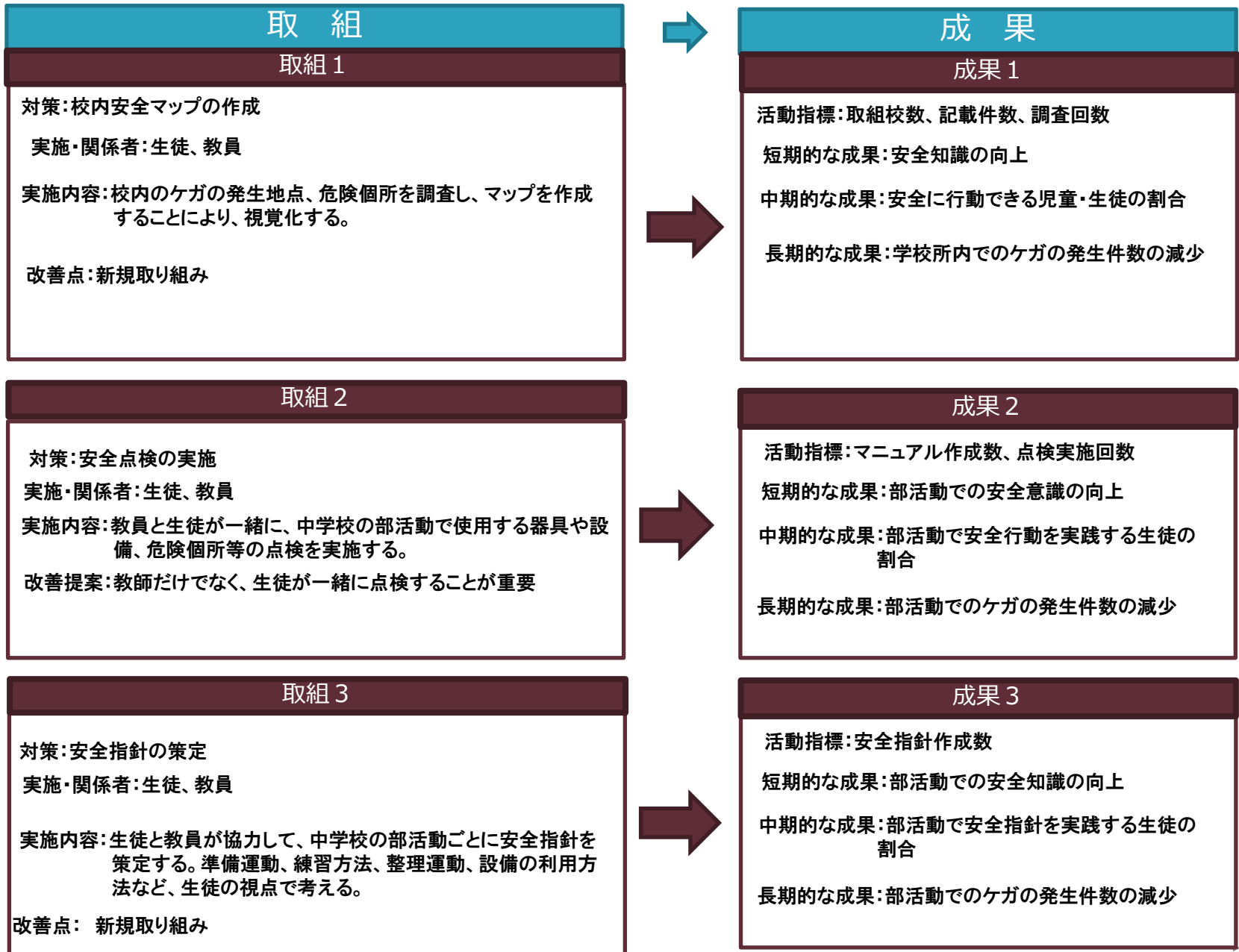
3 活動実績

花の木小学校、南小学校、秩父第二中学校
2014年度 スマホの利用講習会
2015年度 スマホ利用のルールづくり

4 SCを始めてからの気づき

子ども、保護者、教師の3者で、守れるルールづくりに取り組む。





取組

取組 4

対策:ヒヤリハット集の作成と情報共有【新規】

実施・関係者:保育所、市

実施内容:保育所内におけるヒヤリハット事案を収集し、保育士間で情報共有する。

改善点 :ベテラン保育士のノウハウを見える化する



成果

成果 4

活動指標:ヒヤリハット作成数、会議開催数

短期的な成果:安全知識の向上

中期的な成果:チェック項目実践者の割合

長期的な成果:保育所内でのケガの発生件数の減少



取組 5

対策:体幹トレーニングの実施【新規】

実施・関係者:保育士、園児

実施内容:筋力アップを目的とした体操を復活させる。
H26 1園 H27 全市立保育所

改善点: 転倒によるケガが多いことがわかったため、転ばないように体幹を鍛え、バランス感覚を養う体操を導入する。



成果 5

活動指標:取組んでいる保育所数

短期的な成果:保育所内での実施回数の増加

中期的な成果:リズム体操を実践する園児の割合

長期的な成果:保育所内でのケガの発生件数の減少

取組 6

対策:ケガ予防リーフレットの作成・配布【新規】

実施・関係者:保育所、保護者、医療機関、保健センター、市

実施内容:ケガの実態調査に基づき、家庭内等でのケガの予防に関するパンフレットを作成する。パンフレットは、保健センターでの健診時や小児科医等で配布する。

改善点:自宅で発生したケガが比較的多いため、家庭内でのケガ予防対策を中心に啓発する。また、保育所や幼稚園等に通所していない児童や乳児に対するアプローチを強化するため、保健センターも加わる。



成果 6

活動指標:リーフレット作成数・配布数

短期的な成果:危険事項を認識した人の割合

中期的な成果:危険事項を改善した人の割合

長期的な成果:家庭内におけるケガの減少

取組

取組 8

対策: 体験型学習の強化

実施・関係者: 教員、生徒、専門家

実施内容: ロールプレイング等の体験型学習を強化する。

改善提案: 子ども自身に考えさせる機会を増やし、問題解決能力を身につけ、対人関係の構築をはかる

取組 9

対策: スマホ利用のルールづくり

実施・関係者: 生徒、教員、保護者

実施内容: いじめにつながっている「スマートフォン」の利用について、ルールづくりを進める。

改善点: スマホを持たせないことは難しい。子どもと保護者、学校で約束をしたうえで利用させる

成果

成果 8

活動指標: 実施校数、実施回数、参加者数

短期的な成果: いじめに関する認識の向上

中期的な成果: いじめをなくす行動をする生徒の割合

長期的な成果: いじめの発生件数の減少

成果 9

活動指標: 研修会実施回数、参加者数、
ルール作成校数

短期的な成果: スマホの利用に関する知識の向上

中期的な成果: ルールを守る児童・生徒の割合

長期的な成果: いじめの発生件数の減少

現在の課題と方向性

【現在の課題】

1. ベテラン保育士が一斉に退職してしまうため、保育所での危険情報に関する知識や経験の継承が難しい。

【今後の方向性】

1. 保育所において、外傷の発生状況を継続的に記録する取り組みを開始するとともに、定期的にアンケートを実施して、情報を蓄積・共有する。
2. 交通マナーを向上させるため、ISSモデル校3校で下校時等の見守りやチェックカードの作成などを、今後、実施する。
3. 今のところ虐待の相談件数は少ないが、引き続き注視する。



ご清聴ありがとうございました！